

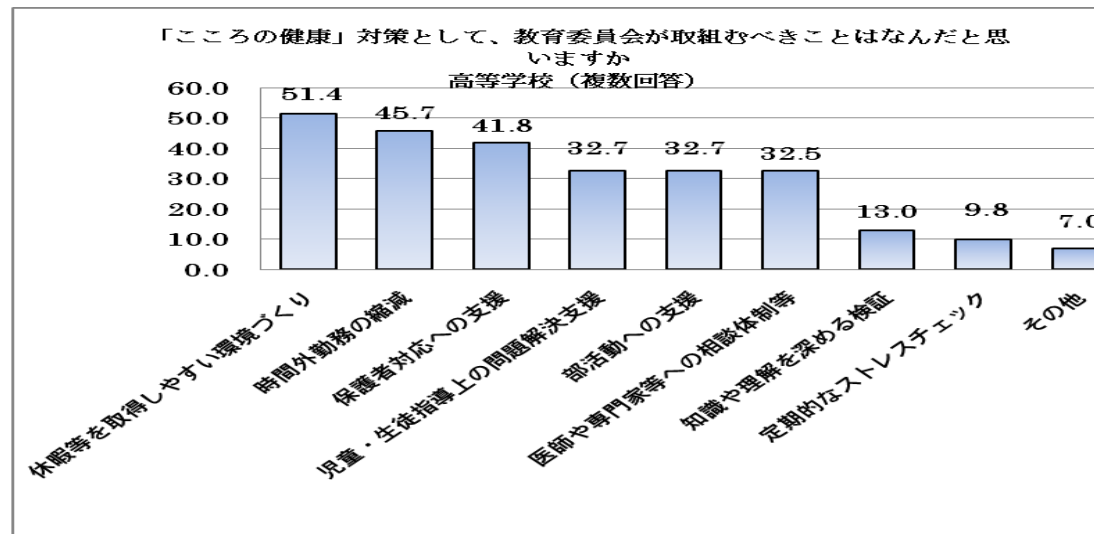
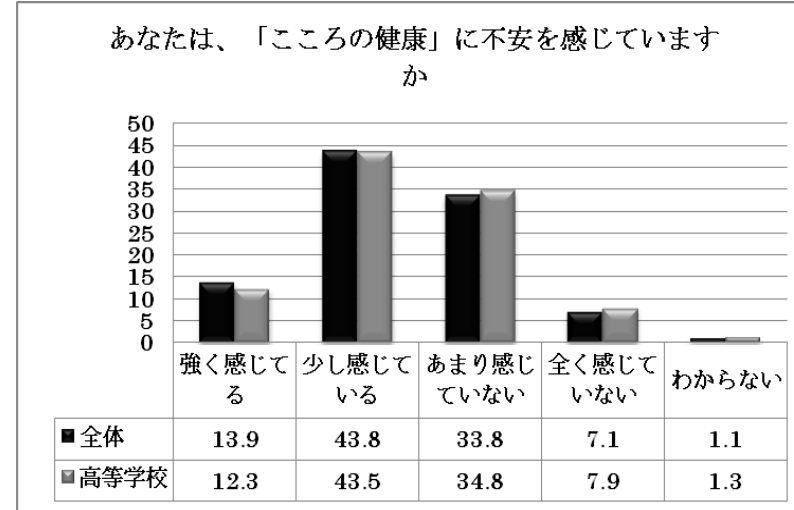
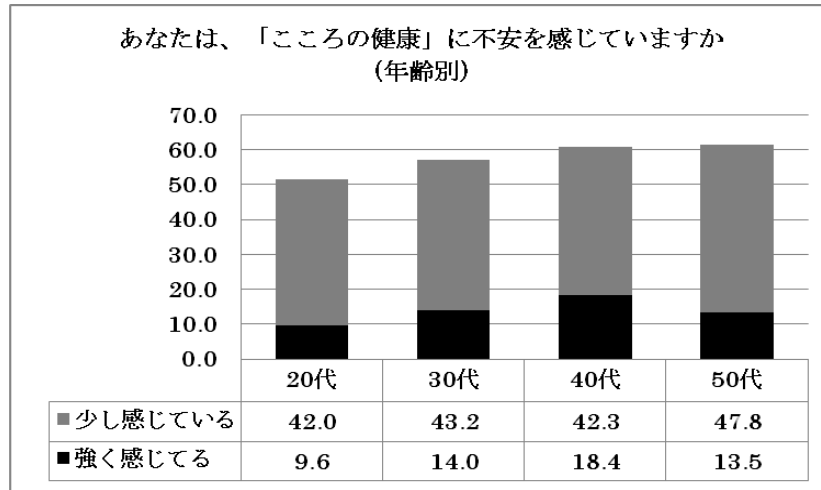
府高教 ニュース

2010年4月26日(月)

速報 No. 1

発行所：大阪府立高等学校教職員組合
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11
大阪府教育会館707号
☎06(6768)2106 FAX 06(6768)1675
http://osaka-fuko.dyndns.org/
eメールosakafko@jn3.so-net.ne.jp

「こころの健康に不安」が6割—府教委が「こころの健康」調査実施 教職員が安心して働ける職場づくりは使用者の責任！！



アンケート対象は合計3千名(府立学校千名、市町村立学校2千名)で、30歳未満、30歳以上40歳未満、40歳以上50歳未満、50歳以上をそれぞれ750名、無作為に抽出しています。有効回答者数は2450名(81.7%)です

府教委は、昨年11月に行った「教職員の「心の健康」対策に関するアンケート調査」の結果を発表しました。

アンケート結果は、「こころの健康」に6割近くの教職員が不安を感じており、定数増、特定の教職員へ偏る業務の解消や休暇等取得しやすき環境づくり、時間外勤務等の縮減を求めています。

また、文書記入の意見やアイデアには、教職員の定数増を求める声が圧倒的に多く、「評価・育成システムの廃止―心理的ストレスを高めているだけで無意味」や「パワーハラ・セクハラ・個人的いじめ：教員として、あるまじき行為で、心の健康を損ねている方を多く見えています」など「システム」や「パワーハラ」によるストレスを指摘する声も出されています。

○九年度末現在の府立高校における病気休職者は141人、その内、精神疾患の休職者は100人という異常な状態です。

府高教は、府教委に対して教職員の長時間過密労働解消、「心の健康」対策として、府教委の責任で時間外勤務の縮減、大幅定数増、30人学級実現とともに、「評価・育成システム」の撤回、「パワーハラ」根絶を強く求めていきます。

を越えています。また、その原因について職場の人間関係が35.3%、勤務時間が長い32.5%が他を圧倒しています。学校が取り組むべき対策として、特定の教職員へ偏る業務の解消57.8%、休暇等取得しやすき環境づくり51.4%、時間外勤務等の縮減41.3%、児童・生徒指導上の問題解決支援41.8%、8%で、教育委員会に対する対策も同じ傾向です(複数回答)。そして、不安を感じることを家族や友人、相談機関等に相談したかには、20歳代で67.0%、30歳代でも55.8%が「相談した」と答えています。

高等学校で「こころの健康」に不安を強く感じるのは12.3%、少し感じる43.5%と6割近くが何らかの不安があり、40歳代、50歳代では6割